

県内女性の消費マインドはわずかに回復するも 収入見通しは依然低水準

～第45回熊本の消費予報調査－2021年5月調査～

はじめに

当研究所では、毎年5月と11月に熊本県内在住の女性を対象として、今後半年間における「収入」「支出」「暮らし向き」等の調査を行っている。これらの調査結果の分析を通じて、熊本県内の女性の消費マインドの今後の見通しを探りたい。

また、第2章では、県内男女約1,000人に対象を拡大した調査を実施。新型コロナウイルス感染症拡大以降の、外食およびテイクアウトの利用実態を調査した。

なお、調査時点では熊本県内は県独自の緊急事態宣言や営業時間短縮要請が相次ぎ、5月中に「まん延防止等重点措置」適用が予想されるなど行動規制が続いている状況にあった。

【調査結果の概要】

1. 前回大きく上昇した収入見通しは、▲21.7と1.9ポイント（以下p）減になり、わずかに悪化。
➢ 前回は、▲19.8と11.4p上昇したもののコロナ禍の収束は見えず、収入見通しは低い水準。
2. 支出意欲は、▲41.0と2.5p上昇するも、依然低水準で推移。
➢ コロナ禍に見舞われた以降は、支出意欲回復の動きは鈍い。
3. 日常のおよび非日常的な支出意欲は、ほとんどの品目で悪化。
➢ 長引くコロナ禍による収入不安や、教育費の増加などで悪化している。唯一、デジタル関連の情報家電への支出意欲が若干増加。

第1章 消費の見通し調査

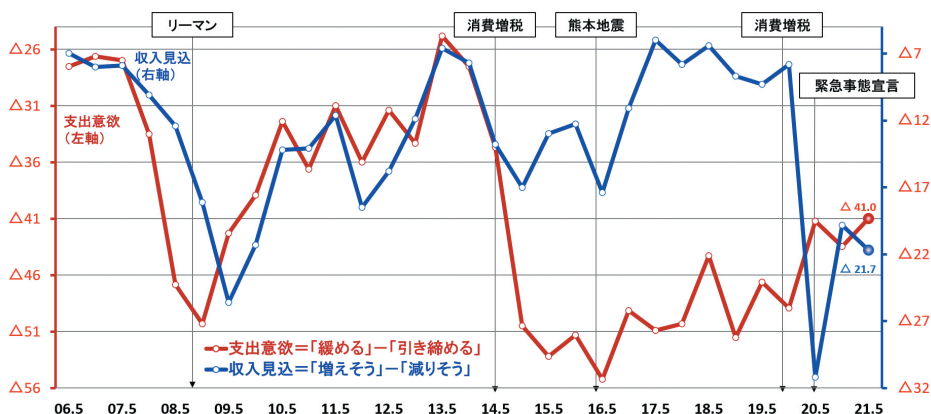
【調査の概要】（定例調査）

1. 調査対象：熊本県在住の20歳以上の女性
2. 調査期間：2021年5月12日～14日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：(株)マクロミル）
4. 有効回答：515人

【回答者の属性】

年代	実数(人)	構成比(%)
20代	102	19.8
30代	102	19.8
40代	104	20.2
50代	103	20.0
60代以上	104	20.2
合計	515	100.0

図表1 今後の見通しDIの長期推移（収入と支出意欲）



1 今後の見通しDI

(1) 収入の見通し

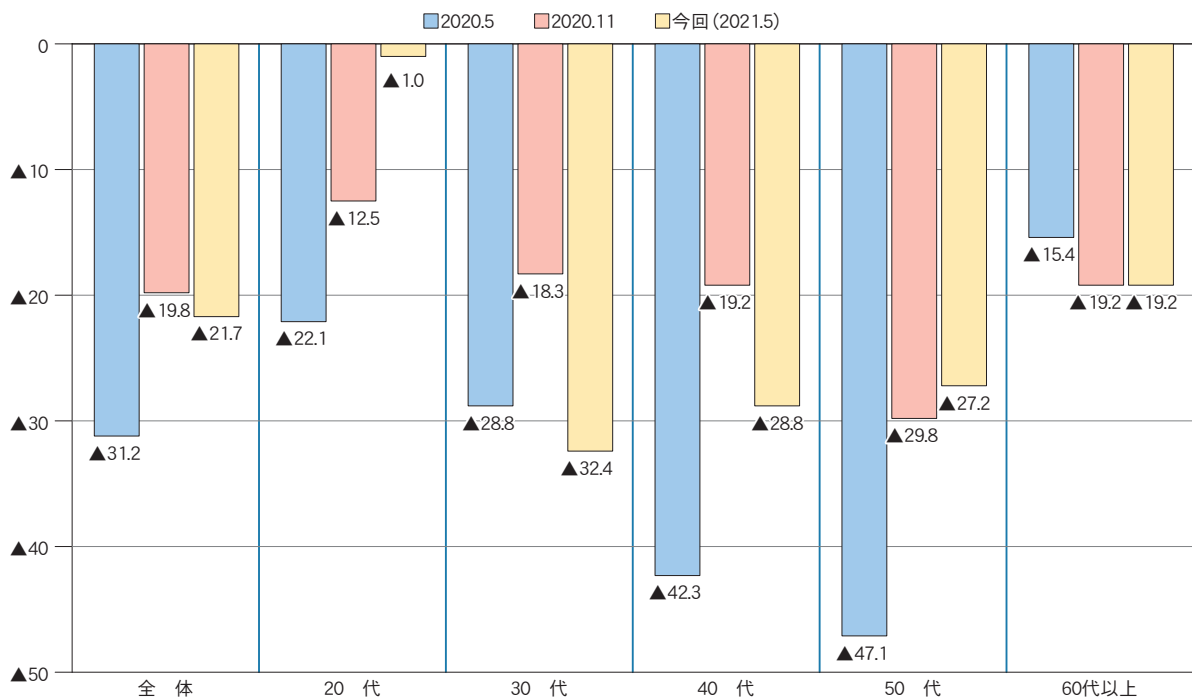
➤ 今後半年間の収入の見通しDIは、今回▲21.7と1.9p低下した。

今後半年間の収入の見通しはやや低下、長期化するコロナ禍の中で依然低い水準が続いている。

年代別では、20代では前回より大きく回復した。就業状況の変化の質問において、就職・転職した人が20代では多くみられたのが要因と考えられる。一方で、30代および40代はコロナの影響を中心に前回より大きく低下する結果となった。

自由回答では、収入の見通しが「減りそう」と答えた層で、長期化するコロナ禍で会社の業績悪化からボーナスや給料が減る見込みという回答が多かった。

図表2 収入の見通しDI（「増えそう」-「減りそう」）



【収入の見通しに関する主な自由回答】

収入の見通し	年代	コメント
増えそう	20代	就職したから
	30代	主人の会社でコロナ関連の手当て金があるので
	40代	主人の昇給
	50代	昇進したから
	60代以上	年金が入るようになる
減りそう	20代	コロナの影響で給料が低くなりそう
	30代	雇用調整助成金が終了したら減ると思う
	40代	コロナが収束しない限り、時短営業のせいで減る
	50代	勤務先がコロナによって収入が減り、ボーナスカットとなるため
	60代以上	仕事を退職したため

(2) 支出意欲の見通し

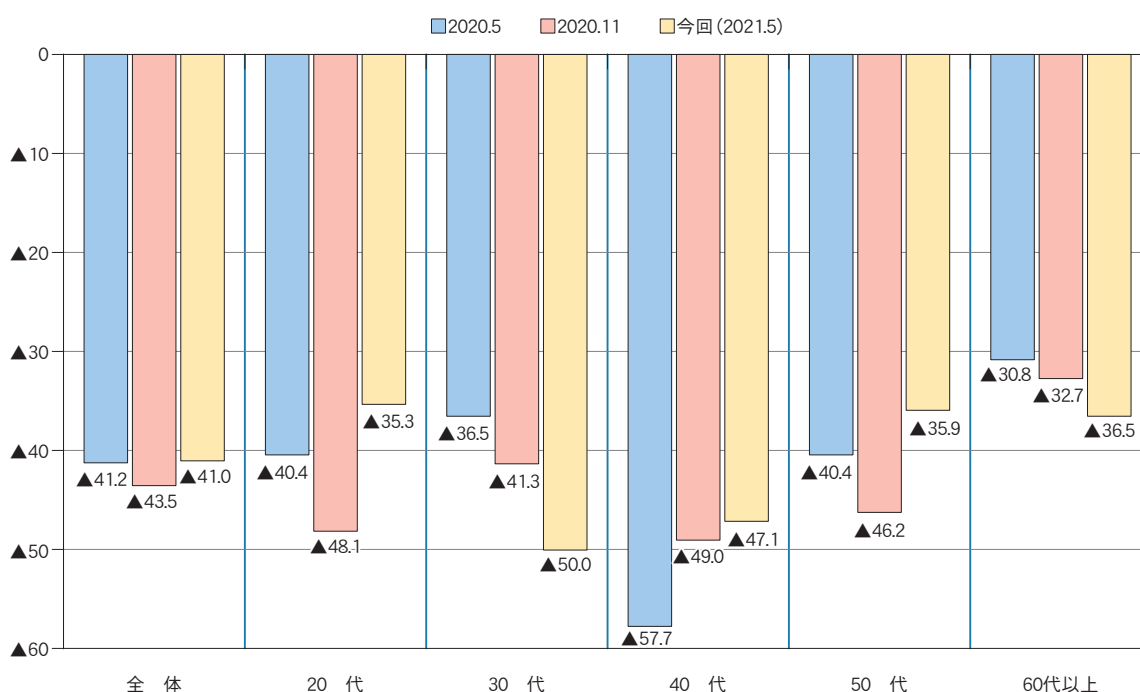
➤ 今後半年間の支出意欲の見通しは、今回▲41.0と2.5p上昇するも、依然低水準。

今後半年間の支出意欲の見通しは、▲41.0と前回比2.5pの上昇。前回調査よりわずかに上昇したが、コロナ禍の不安の中で支出を抑える傾向が続いており、依然低水準に留まっている。

年代別に見ると、20代と50代では収入の見通しが上昇していることもあり（図表2）、前回より大きく上昇するも、30代と60代以上は連続して低下した。

自由回答では、コロナ禍の収束までは支出を抑える傾向が多く見られ、「少し緩める」とした中には旅行やレジャーでリフレッシュしたいという回答もあったが、これらは支出意欲の回復に大きく寄与する力強さはなかった。

図表3 支出意欲の見通しDI（「緩める」+「少し緩める」）-（「引き締める」+「少し引き締める」）



【支出意欲の見通しに関する主な自由回答】

支出意欲の見通し	年代	コメント
緩める	30代	引っ越しにより出費が一時的に増える
少し緩める	20代	少し贅沢をしたい
	40代	リフレッシュしたい
	50代	コロナが少し落ち着いたら旅行に行きたい
	60代以上	旅行やレジャーに出かけたい
少し引き締める	20代	今のうちに引き締めておかないと収入が不安だから
	30代	自粛期間に通販で買いすぎたのでやはり貯蓄したいので引き締める
	40代	コロナの影響で今後どうなるかわからないから
	50代	子供の進学で支出が増える
引き締める	60代以上	家にいる時間が多くなり光熱費が高くなったので引き締めたい
	30代	今後の経済状況が不安なので、支出を抑え、貯蓄、投資します
	60代以上	コロナが長引きそうなので、いろんな支出を抑えたい

(3)暮らし向きの見通し

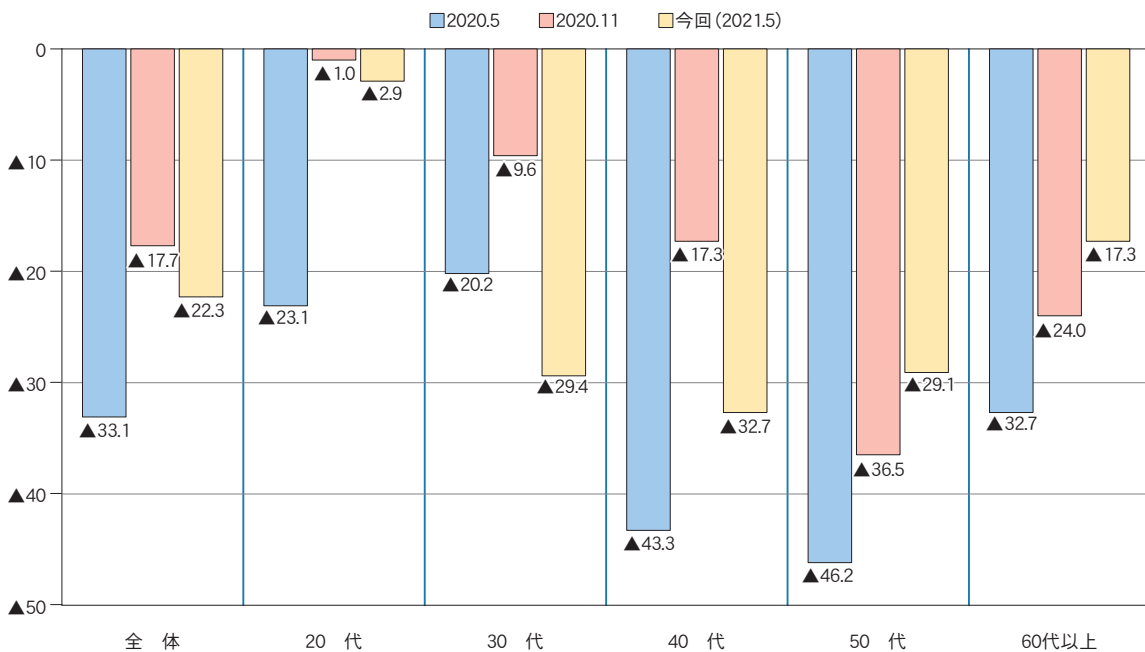
➤ 暮らし向きの見通しは、▲22.3と4.6p減少し、わずかに悪化。

前回大きく回復していた今後半年間の暮らし向きの見通しは、わずかに悪化した。

年代別では、20代が▲2.9となるも、他の世代に比べ水準が高く、収入の見通し（図表2）の回復が要因とみられる。

自由回答からは、ワクチン接種への期待感と、一方でコロナ禍の長期化による収入不安がみられた。また、30代と40代は、子どもの教育費が負担になっているという現状もうかがえた。

図表4 暮らし向きの見通しDI（「良くなる」+「やや良くなる」）-（「悪くなる」+「やや悪くなる」）



【暮らし向きの見通しに関する主な自由回答】

暮らし向きの見通し	年代	コメント
良くなる	50代	収入が増えるから
やや良くなる	20代	コロナが落ち着けば戻りそうだから
	30代	コロナワクチンが浸透して出かけやすくなると思う
	40代	昇給、時給アップがあるから
	50代	ワクチン効果、期待しています
	60代以上	ワクチン接種が済むと思うから
やや悪くなる	20代	旅行も行けないし、常にコロナに対する不安が付きまとうから
	30代	子供の習い事など増えるため
	40代	収入は増えないが、子供にかかる費用が増えそうだから
	50代	まだ余暇が楽しめる状況にないから
	60代以上	物価が上昇傾向にあるので、相対的に悪くなると思う
悪くなる	20代	ボーナスが支給されない気がするから
	30代	年収が減るから
	40代	収入が減って我慢が必要だから

2 日常・非日常の支出の状況

(1) 日常的な支出の見通し

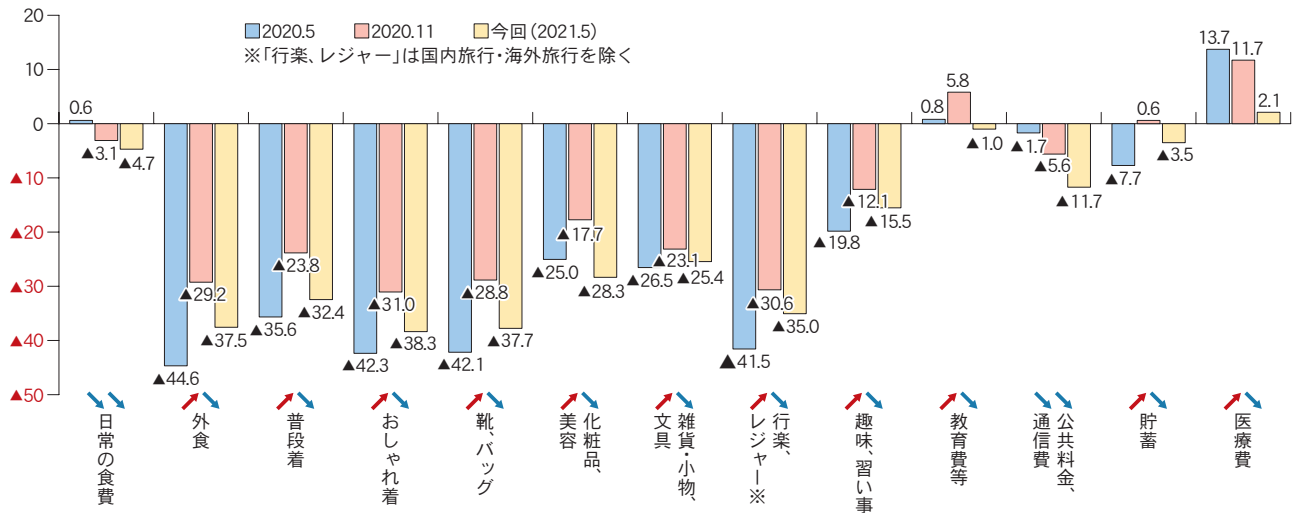
➤ 全ての項目で、前回よりも支出意欲が低下する結果となった。

前回調査では支出意欲の上昇が多く項目でみられたものの、今回は全ての項目で支出意欲が低下する結果となった。

「医療費」は前回調査比▲9.6p、「化粧品、美容」は▲10.6p、「普段着」▲8.6p、「おしゃれ着」は▲7.3pとなった。

「化粧品、美容」「普段着」「おしゃれ着」の服飾品は外出自粛等の影響がうかがわれ、「医療費」は、感染防止の行動抑制として診療控えが影響しているとみられる。

図表5 日常的な支出の今後の見通しDI（「増やす・増えそう」-「減らす・減りそう」）



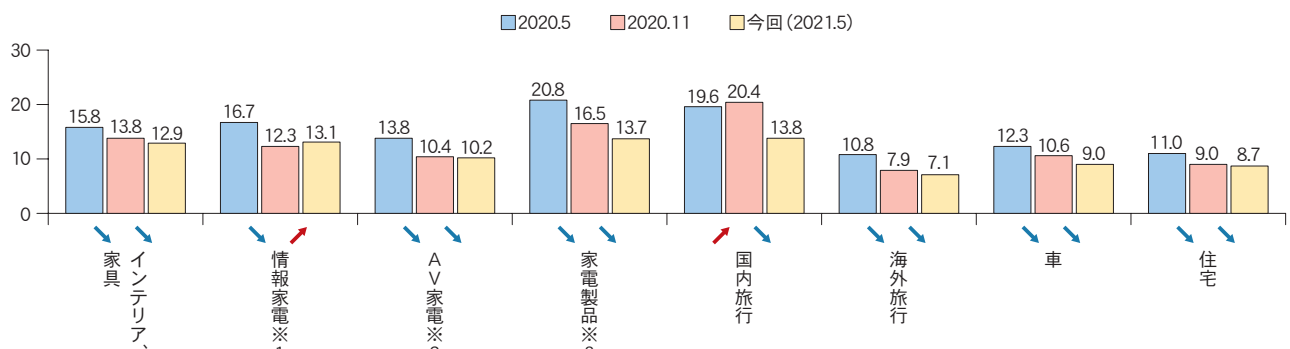
(2) 非日常的な支出の見通し

➤ 情報家電を除き、前回よりも支出意欲が低下する結果となった。

非日常的な支出の見通しは、ほとんどの項目が前回よりも厳しい見通しとなった。

唯一、デジタル関連である「情報家電」は13.1と前回より0.8pとわずかに回復した。自宅でのリモート勤務等でパソコンや関連機器の需要がうかがわれる。また前回上昇した「国内旅行」は「Go To Travel」キャンペーンの一時中止等で13.8と前回より▲6.6pとなった。

図表6 非日常的な支出品目の今後半年間の支出見通し



※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話（スマートフォン）など。
 ※2 AV家電とは、テレビ、ブルーレイレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。
 ※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とAV家電以外の電気製品。

3 熊本地震前と比較した現在の生活環境

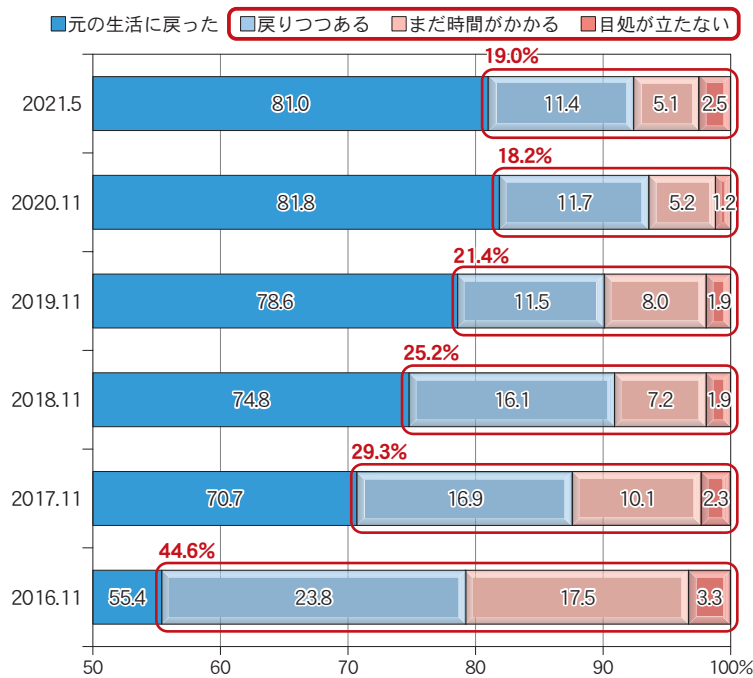
➤「元の生活に戻った」と回答した人は、前回調査比で微減。

「元の生活に戻った」と回答した人は、81.0%と、前回より0.8p減少となる。

一方で、「元の生活に戻っていない」（「戻りつつある」「まだ時間がかかる」「目処が立たない」と回答した人は19.0%と依然として地震の影響が残っている。

自由回答では、自宅の建替や修繕により経済的に余裕がなくなっているとの回答や、コロナ禍で仕事が無いなどのコメントがみられた。

図表7 熊本地震前と比較した現在の生活環境



【生活環境に関する主な自由回答】

生活環境	年代	コメント
元の生活に戻った	20代	道路や建物も修復が進んでるから
	50代	道路やインフラも元に戻ってきたから
元の生活に戻りつつある	30代	自宅も購入し、地盤沈下の心配も無くなったが、自宅から少し離れた所は道路が地震で壊れたままのところもある
	40代	買い替えた家電等のローンが終わりつつある
	60代以上	町並みの復興は大体終わりつつあるが、たまに地震があるたび恐怖が甦り不安定な状態
元の生活に戻るにはまだ時間がかかる	40代	借金がふえたためもう少しかかる
	60代以上	修理に貯金を使ったため余裕がない
元の生活に戻る目処が立たない	20代	コロナが落ち着かないと仕事がない
	30代	家を解体して、新居のローンがある
	50代	住宅のリフォームが必要だが、目処はたっていない

第2章 外食・テイクアウトの利用実態等調査

男性を追加し、新型コロナウイルス感染症拡大が収まらない中での外食等利用状況について、行動の変容を掴むため前回に引続き調査した。尚、比較は昨年11月調査のアンケート結果と行った。

【調査の概要】（特別調査）

1. 調査対象：熊本県在住の20歳以上の男女
2. 調査期間：2021年5月12日～14日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：(株)マクロミル）
4. 有効回答：1,033人

年代	実数(人)		構成比(%)	
	男性	女性	男性	女性
20代	72	102	7.0	9.9
30代	111	102	10.7	9.9
40代	112	104	10.8	10.1
50代	112	103	10.8	10.0
60代以上	111	104	10.7	10.1
合計	518	515	50.1	49.9

(小数第2位を四捨五入)

1 4月の外食・テイクアウトの利用について

(1) 4月の外食・テイクアウトの利用状況

- 外食は、「まったく外食しなかった」「減った」が67.6%と前回より7.5p増加。
- テイクアウトを「まったく利用しなかった」「減った」は59.3%と前回より2.6p増加。

① 外食について

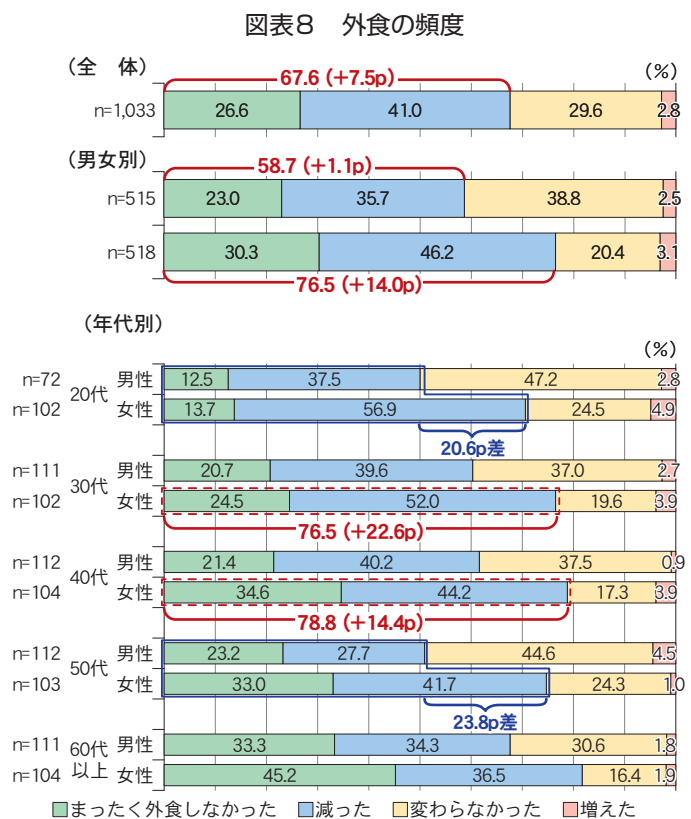
全体では「まったく外食しなかった」「減った」が67.6%と前回調査より7.5p増加した。

男女別では、女性の方が76.5%となり14.0pと大きく増加している。男性より女性の行動抑制が強く表れている。

年代別では、20代男性の「まったく外食しなかった」「減った」が50.0%となり女性は同70.6%と20.6pの差となる。

50代では同50.9%で女性は同74.7%と23.8pの差が生じている。

さらに女性の30代と40代では前回よりそれぞれ+22.6p、+14.4pと増加幅が大きくなっている。コロナ禍の感染防止と収入不安からくる支出抑制のため、家庭内での食事が進んだとみられる。



②テイクアウトについて

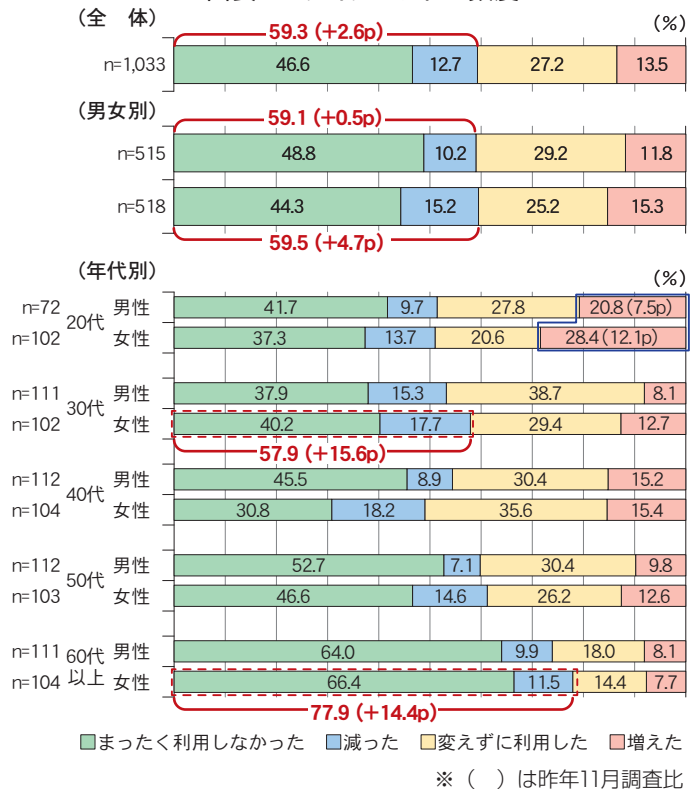
全体ではテイクアウトを減らした人(「まったく利用しなかった」「減った」)は、59.3%と前回調査より2.6p増加した。

男女別では、女性が4.7p増加して59.5%と男性とほぼ同割合になった。

年代別では、女性の30代が57.9%と15.6p増加、60代女性が77.9%で14.4p増加と、テイクアウトを大きく減らしている。

一方で「増えた」の割合は、20代の男女で高く、それぞれ7.5p、12.1p増加している。外出抑制のなか、若い層では、食材の準備や調理が不要で気軽に利用できるテイクアウトを増やしていると思われる。

図表9 テイクアウトの頻度



(2)飲食店に求める感染症対策

- 「店員のマスク着用」(69.8%)や「入店時の手指消毒」(66.0%)が上位となる。
- 「客席間のアクリル板やシート等の仕切りによる飛沫防止」および「非接触型の体温計やサーモグラフィ等による検温」は前回と比べて大きく増加した。

飲食店に求める感染症対策は、「店員のマスク着用」が69.8%と前回調査より0.5p増えて最も多く、以下「入店時の手指消毒」「客席間の十分な距離の確保」と続いた。

前回に比べ「客席間のアクリル板やシート等の仕切りによる飛沫防止」「非接触型の体温計やサーモグラフィ等による検温」の対応策が大きく増加した。

また、「対策等がされていても、飲食店には行かない」人も13.4%と、感染症への警戒心が強い人は一定数みられる。

図表10 飲食店に求める感染症対策

